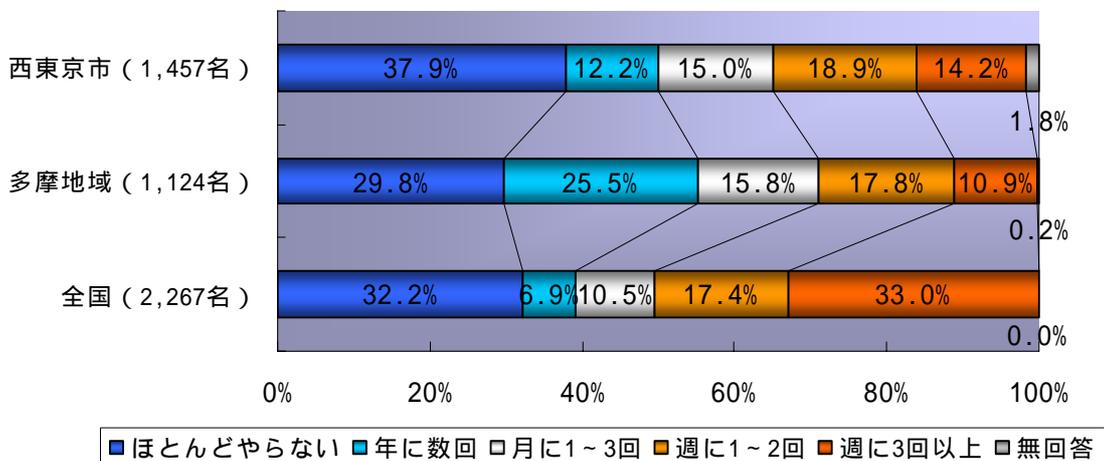


第3章 西東京市のスポーツの現況と課題

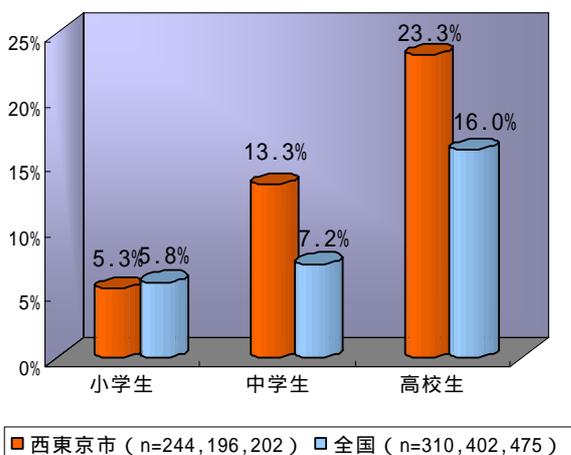
3-1. 市民のスポーツ実施状況

本市では、スポーツをほとんどやらない一般市民が、全体の37.9%を占めています。これは、全国（32.2%）や多摩地域（29.8%）と比べても高い値です。一方、スポーツを週に1回以上やっている一般市民は、全体の33.1%となっており、全国（50.4%）よりは低いものの、多摩地域（28.7%）よりは高い値となっています。つまり、本市では、スポーツをほとんどやらない市民と、定期的にスポーツをやっている市民に“二極化”しているという傾向があります。

図表3-1 一般市民がスポーツをやる頻度
（一般市民、全員回答、単数回答、n = 1,457）



図表3-2 スポーツをほとんどやらない児童生徒の割合
（児童生徒、全員回答、単数回答）

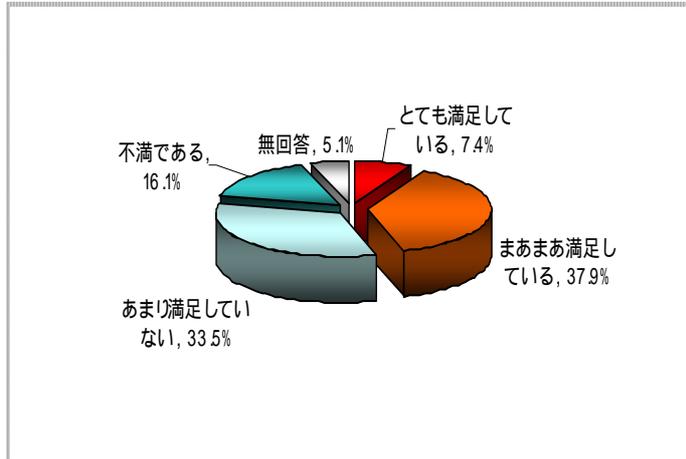


スポーツをやらない児童生徒の割合は、小学校、中学校、高校と年齢が高くなるほど増えていくという全国共通の傾向があります。本市でもその傾向自体は同じなのですが、スポーツをやらない小学生の割合は全国とほぼ同程度にもかかわらず、中学生、高校生と段階が進むごとに、極端にその割合が増加しています。

3 - 2 . 市民のスポーツに関する意識

(1) スポーツ活動に対する満足度

図表 3 - 3 一般市民のスポーツ活動頻度に対する満足度
(一般市民、全員回答、単数回答、n = 1,475)



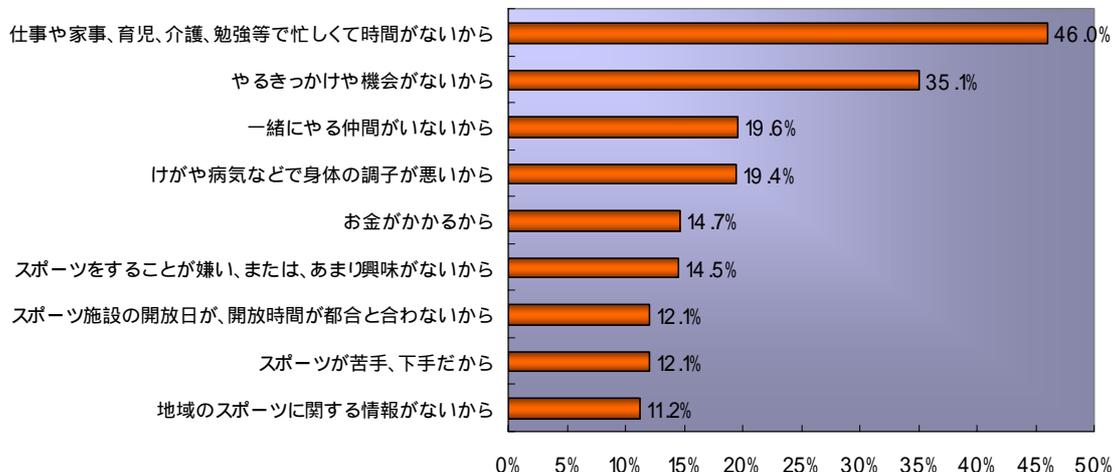
一般市民のスポーツ活動頻度に対する満足度は、「とても満足している(7.4%)」「まあまあ満足している(37.9%)」を合わせると45.3%で、「不満である(16.1%)」「あまり満足していない(33.5%)」の49.6%を下回ります。スポーツ実施率及び実施頻度を高め、スポーツ活動に対する満足度を高めるための施策が求められます。

(2) スポーツをやらない理由

一般市民がスポーツ活動をおこなわない理由は、「忙しくて時間がないから」がもっとも多く46.0%で、次いで、「やるきっかけや機会がないから」が35.1%でした。それ以外の理由としては、仲間に関する事、スポーツ施設に関する事、情報に関する事などが挙げられました。一方で、「スポーツをすることが嫌い、または、あまり興味がないから」と回答した一般市民は、14.5%にとどまりました。

スポーツ自体が嫌いな人が多くないことから、機会や仲間がいることによりスポーツをする可能性のある潜在需要が高いことがわかります。

図表 3 - 4 一般市民がスポーツをやらない理由(回答率10%以上の項目)
(一般市民、スポーツを「ほとんどやらない」と回答した人のみ、複数回答、n = 552)

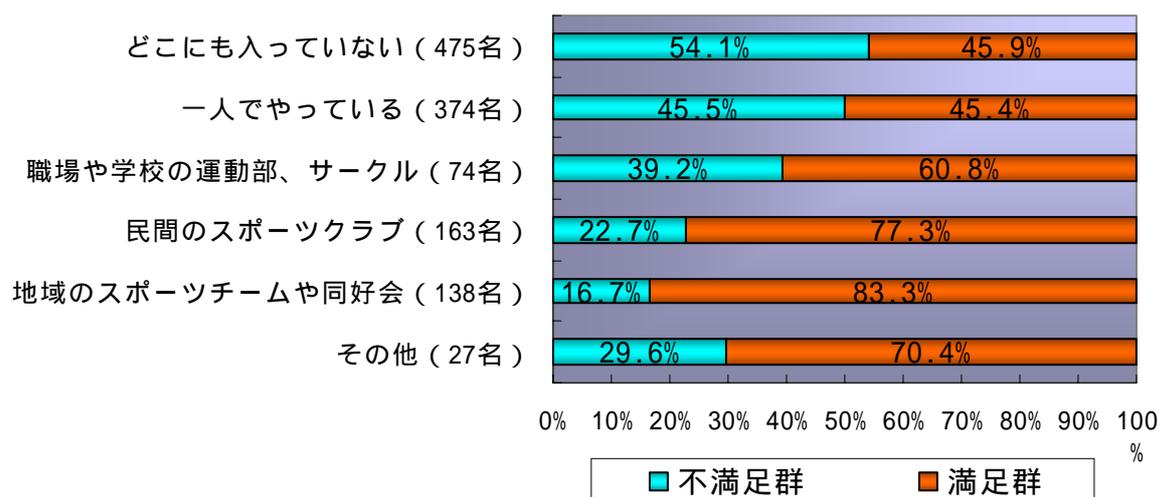


3 - 3 . 地域のスポーツクラブ・団体

(1) 地域のスポーツクラブへの期待と可能性

サークル、同好会、クラブなどに所属せずに一人でスポーツ活動をおこなうよりも、団体に所属してスポーツ活動をおこなったほうが満足度が高く、特に、地域のスポーツチームや同好会に所属している人の満足度が高いということがわかります。また、スポーツをやらない理由として、一般市民の 19.6%（高校生 10.6%、中学生 7.7、小学生 7.7%）が「一緒にやる仲間がないから」と回答していることから、地域のクラブ・団体の充実、スポーツ実施率や満足度の向上に有効な施策であると考えられます。さらに、学校単位にとらわれず幅広い年代が参加するようなクラブ・団体であれば、小学校 中学校 高校と学校の段階が進むごとにスポーツ活動をおこなわない児童生徒が大きく増加するという、本市の課題克服に貢献することが期待されます。

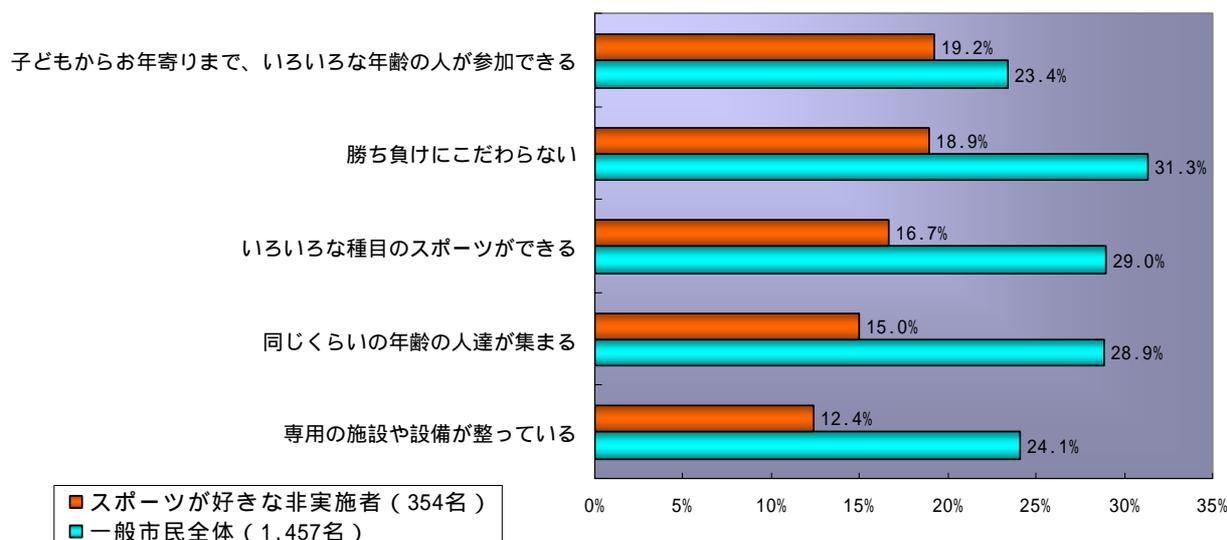
図表 3 - 5 一般市民のスポーツ活動頻度に対する満足度とスポーツ団体への所属状況
（一般市民、スポーツ実施者、単数回答、n=1,251）



(2) 求められているクラブ

一般市民のうち、「条件が合うクラブがあれば入りたい」と回答した人は、40.5%となっており、スポーツクラブ・団体への加入に対する潜在需要があることがわかります。スポーツが「とても好き」「まあまあ好き」と回答したにもかかわらず、現在はスポーツをおこなっていない市民（354名）が、身近にあったら入りたいと思う運動サークルやスポーツクラブの条件は、「子どもからお年寄りまで、いろいろな年齢の人が参加できる」が 19.2%と最も多く、「勝ち負けにこだわらない」が 18.9%、「いろいろな種目ができる」が 16.7%でした。クラブハウスや芝生のグラウンドなどのハード面よりも、団体の活動内容やメンバー構成が重視されており、多世代・多世代・楽しみ志向のクラブや団体が望まれていることがわかります。

図表 3 - 6 一般市民のスポーツが好きな非実施者が入りたいクラブ・団体の条件
 (一般市民、スポーツ好きな非実施者、複数回答、n=354)



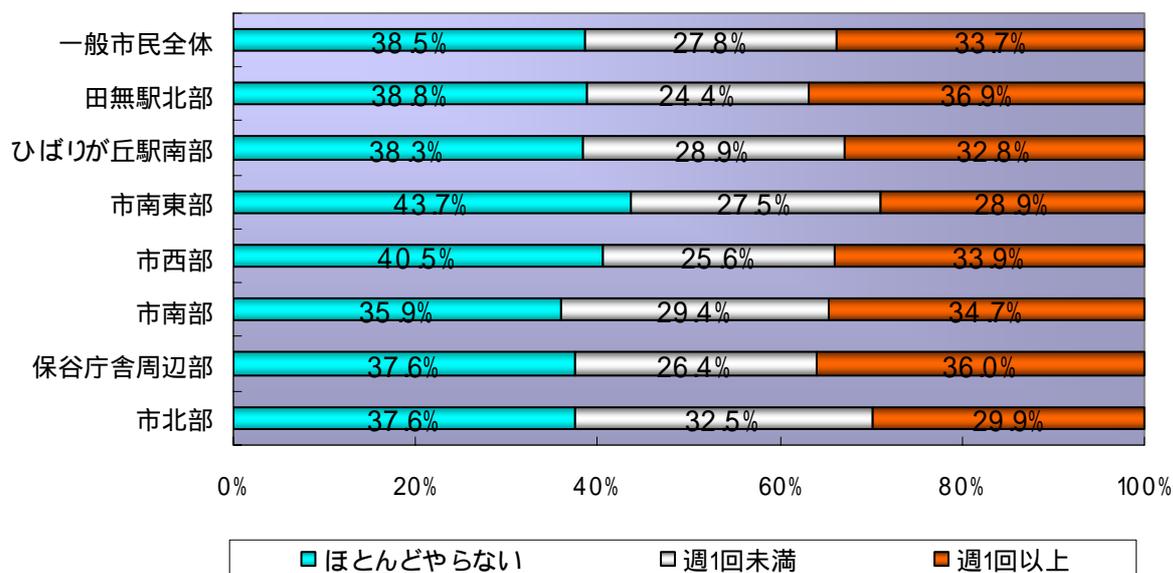
3 - 4 . スポーツ施設・設備

(1) 公共スポーツ施設の分布と近隣地域のスポーツ実施率

本市のスポーツ施設は市南部(4施設)、市西部(4施設)、保谷庁舎周辺部(3施設)に多く、市南東部には施設がないといったように、その分布に偏りがみられます。非実施者の割合が低いのは、施設の多い市南部(35.9%)と保谷庁舎周辺部(37.6%)で、一方、施設のない市南東部は、非実施者の割合が43.7%と最も高くなっています。また、市西部は、4施設あるものの非実施率が40.5%と2番目に高くなっていますが、これは、交通の利便性が悪いことや団体利用がメインの施設が多いためと考えられます。週1回以上の定期的実施者の割合についても、施設がない市南東部(28.9%)と団体利用がメインの施設が1施設のみ市北部(29.9%)では、定期的実施率が低くなっています。

アンケートの結果から、公共スポーツ施設は、市民のスポーツ活動に影響を与えることがわかりました。しかし、今後、新しく公共スポーツ施設を増設することは、財政的にも困難であるため、既存施設への交通の利便性を高めたり、積極的な情報提供をおこなって、より広域から施設を利用できるような環境をつくることも必要でしょう。その他、分布の偏りをなくすために、スポーツ施設以外の施設の有効活用なども効果的だと考えられます。

図表3-7 一般市民の居住地区別のスポーツ実施率
 (一般市民、全員回答(無答除く)、単数回答、n=1,431)



(2) 公共スポーツ施設に求められるもの

公共スポーツ施設に対しては、すべての項目において「重要でない」と回答した人の割合が極めて低く、スポーツ施設に対する要望の高さがうかがえます。特に、「予約手続きの利便性」「スポーツ施設・設備の充実」「付帯施設・設備(シャワー)の充実」は、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いため、早急な改善が求められます。

図表3-8 一般市民スポーツ実施者のスポーツ施設に対する満足度と重要度
 (一般市民、スポーツ実施者、単数回答、n=879)

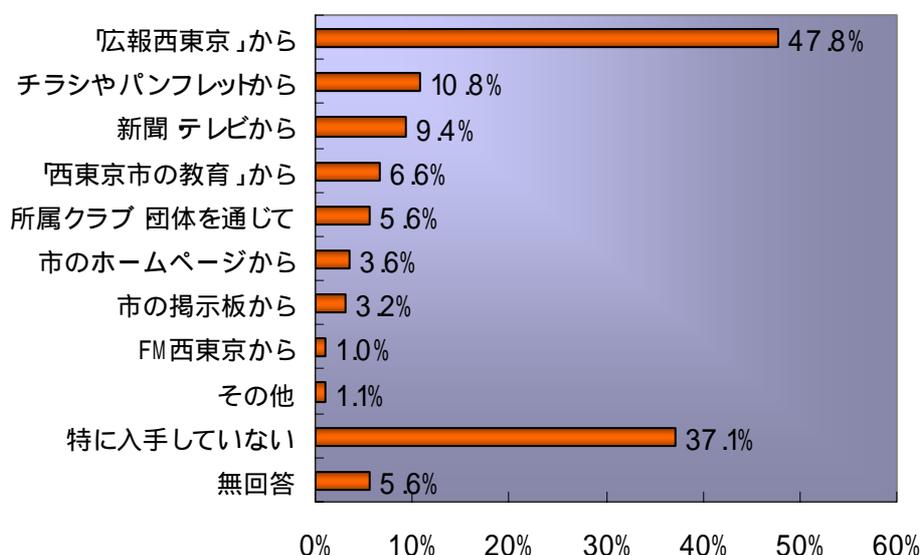
求められる対応	項目
満足度向上へ向けた早急な対応が求められる。 (重要度が高く、満足度が低い)	予約手続きの利便性 スポーツ施設・設備の充実 付帯施設・設備(シャワー)などの充実
継続的な満足度の維持が求められる。 (重要度が高く、満足度が高い)	利用開始時間、終了時間の適切さ 休館日設定の適切さ 一回の利用時間帯の長さ 利用料金の適切さ 職員・スタッフの対応のよさ

3 - 5 . スポーツに関する情報提供

(1) スポーツ情報の入手手段

地域のスポーツに関する情報の入手手段は、「『広報西東京』から」が最も多く 47.8%でした。次の「チラシやパンフレットから」は 10.8%となっており、「広報西東京」以外のから情報入手手段がほとんどないのが現状です。また、「特に入手していない」が 37.1%となっていることから、ほとんどの市民は情報入手に対して受動的であり、積極的に自分から情報を集めている人は少ないことがわかります。

図表 3 - 9 一般市民の地域のスポーツに関する情報の入手方法
(一般市民、全員回答、複数回答、n=1,457)



(2) 市民に求められている情報

市が提供するスポーツ情報として、重要度が高い項目は、「スポーツ教室の情報」(42.0%)「スポーツや健康の情報」(40.5%)などでした。施設の情報だけでなく、スポーツ団体や教室、スポーツや健康に関する情報など、多岐にわたる情報が求められていることがわかります。

図表 3 - 10 一般市民のスポーツ情報に対する重要度
(一般市民、全員回答、単数回答、n=1,457)

	重要群	非重要群	わからない・無答	平均値
スポーツ教室の情報	42.0%	11.6%	46.3%	3.0
スポーツや健康の情報	40.5%	13.6%	45.9%	2.9
施設の予約・手続きの情報	40.3%	11.7%	48.0%	3.0
スポーツクラブ・団体情報	35.6%	16.1%	48.3%	2.8
スポーツ競技大会の情報	32.0%	20.1%	47.9%	2.6
市民の活躍の情報	26.3%	24.4%	49.3%	2.5
その他	1.8%	2.4%	95.8%	2.3